



一般社団法人障がい者アート協会

第5期 年間活動報告

2019年12月～2020年11月

目 次

I. 総括	P3
II. 個別テーマのレビュー	P4
・経済支援実績（著作権利用料及び創作活動応援費）	
・作品公開：オンラインギャラリー運営（公益目的事業）	
・作品二次利用（収益目的事業）	
・財務状況（経理的基礎）	
・他社、他団体との連携	
III. 6期に向けた課題	P6
・収益基盤再構築	
・作品及び著作権管理の体制整備	
・啓蒙活動への取り組み	
IV. 参考資料 I、II、III	P7
・作品二次利用実績一例	
・他社、他団体連携	
・財務諸表他関連数値	

以上

I. 総括

今期は収支面において大変厳しい局面も経験しましたが、積極的な他団体との連携や事業の幅の広がり等から順調に規模を拡大し、5年目という節目にふさわしく、「一人でも多くの障がいがありながらも創作活動が続ける人たちの一点でも多くの作品を、一人でも多くの人に知ってもらう、見てもらう」という団体設立当初からの目標を一つ形にし、同時に次のステージに向けての基礎も固めることが出来た期でありました。

収支につきましては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い下期に入り昨年比最大60%の水準まで収入が減少したことにより、事業としての収入が団体設立から初めて昨年比マイナスの実績となりました。ただし、この事態に対して国の対策として施行されました持続化給付金やご寄付等の恩恵もあり、収支全体としましてはプラスとなり、財務状況につきましては昨年から引き続き僅かながら改善に向け前進しました。

障がい者支援の取り組みにつきましては、昨年同様その規模を拡大し続けています。周知活動の中心となるオンラインギャラリー【アートの輪】は参加アーティストが500名、公開作品数14,000点をそれぞれ超える国内最大のギャラリーとなりました。順調な規模拡大が進む一方で、コロナ禍という特殊事情はあるにしても、作品数増加と同程度の収入増が実現できていないことから、経済支援の裾野拡大という規模は大きくできましたが、対象者一人あたりの経済支援額は減少傾向を止めることが出来ませんでした。

ただし、これら多様で膨大な公開作品を活用したノベルティグッズなどの企業による作品二次利用は、不安定な社会情勢の中、昨年並の実績件数を確保し、且つ案件1件あたりの規模が昨年より大きくなり、結果的に約10万人という人々がそれら作品をいろいろな形で直接目にし、或いは手にするという成果に繋がりました。これにより、多くの人々が「障がいのある人々の創作活動」を具体的な形で知ることとなり、周知という点でも間違いなく裾野が広がると同時に、これまで取り組んできた周知のあり方、進め方について手応えを感じた一年でありました。

Ⅱ. 個別テーマのレビュー

■経済支援実績（著作権利用料及び創作活動応援費）

本年度の経済的障がい者支援については総額1,630千円（対5期120.9%）、対象者数のべ881人（対5期133.3%）となりました。

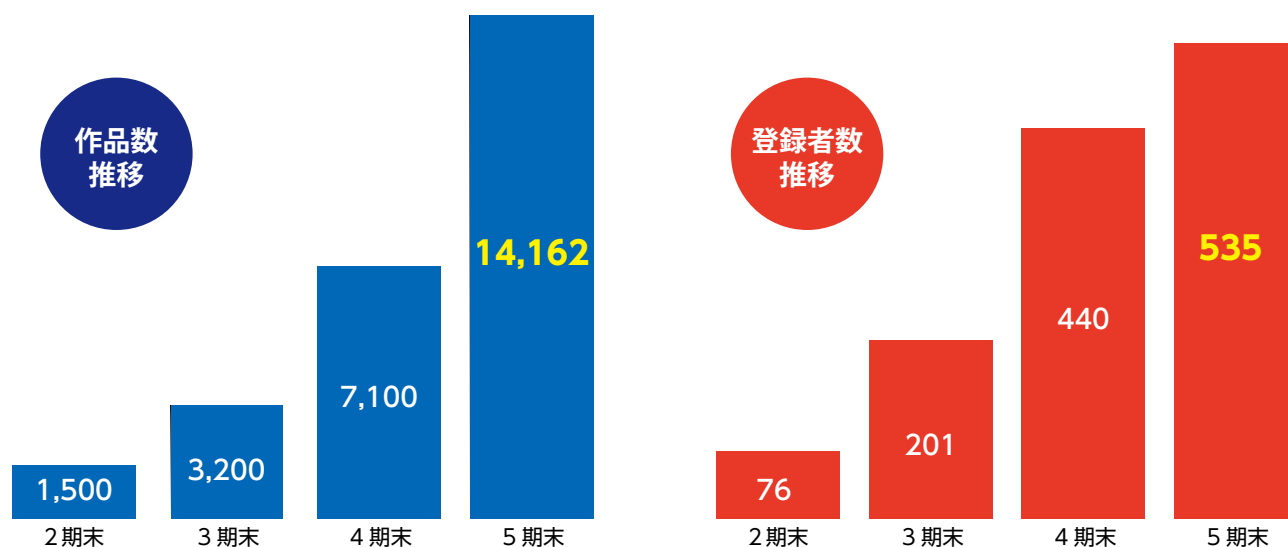
収入減少による創作活動応援費は微減となったものの、昨年並みの件数、且つ一案件当たりの規模が拡大した作品の二次利用による著作権利用料の増加が全体を底上げし、経済支援総額自体の増加を実現することができました。

なお、創作活動応援費につきましては、当初より原資に対して5%として運用してまいりましたが、収入減と対象者増加という状況により一人あたりの支援額の減少に歯止めがかからない中、最低支援金額を¥500と設定し、それを実現できるパーセンテージを都度調整する運用に期中に変更いたしました。結果的に5期末時点では原資に対して約10%となっています。これに著作権利用料の約30%を加え、当協会の経済支援制度は原資に対して約40%を支援に当てる形で運用しています。

		4期	5期	対4期
経済支援総額	千円	1,348	1,630	(120.9%)
対象者数	人	553	881	(159.3%)
(内著作権利用料)	千円	(966)	(1,261)	(130.5%)
(対象者数)	人	(195)	(260)	(133.3%)

■作品公開：オンラインギャラリー運営（公益目的事業）

オンラインギャラリー【アートの手】上での作品公開数につきましては、下記グラフの通り依然としてその数を速いペースで増え続け、登録者数についても昨年ほどの伸びはありませんが、着実に増加傾向にあります。またこれまで停滞していた団体登録も、期中に募集フォームの改善や積極的な情報発信などを行い、4期の6団体から14団体と増加傾向に転じています。



■作品二次利用（収益目的事業）

作品二次利用の実績につきましては下表の通り、件数ベースで122%、以前からの課題でありました一件当たりの単価も上昇し金額ベースで159%と大きく増加しました。

4期に引き続きカレンダーや建設現場の仮囲いといった従来の展開先に加え、衣料品やエコバッグ、マスクケースといった実需のある雑貨のデザイン、ラジオ番組のホームページ掲載等、多種多様な展開先で二次利用を実施することが出来ましたが、2点ほど特徴的な点があります。一つ目は過去にご活用頂いた企業からのリピート案件が増加してきたことです。

そして2点目の特徴は、上記も踏まえた上で、4期に比べてその拡散数が非常に大きなものになってきていることです。下表は二次利用のうち、商品として複数生産され企業に納品された商品数の内訳です。これらは企業の手から一般ユーザーへ配布されることとなりますが、全体として4期の倍、実数にして約9万人の手元に作品が形を変えて届くこととなります。これに建設現場の仮囲いやスポンサー企業様へのレンタルなど不特定多数の人が目にする機会を加えると10万人以上の人たちに対して周知されたと理解しています。

※ 収益事業内作品二次利用実績

	前期		当期			
		平均単価		前期同期比	平均単価	前年同期比
金額	2,873		4,582	159%		
(件数)	(46)	62	(56)	(56%)	82	131%

※ アイテム別二次利用納品数

アイテム	4期		5期		対4期
	納品数	(構成比)	納品数	(構成比)	
ノベルティグッズ	1,400	(3%)	35,590	(40%)	(2542%)
雑誌・書籍表紙	25,700	(60%)	38,500	(43%)	(150%)
年賀状・DM・名刺等カード類	16,000	(37%)	15,504	(17%)	(97%)
計	43,100	(100%)	89,594	(100%)	(208%)

二次利用自体は主には収益を得るための事業ではありますが、同時にその数が大きくなれば「社会周知」という意味で公益性の面でも非常に意義深い事業になると考えられますことから、この後者については大変喜ばしい結果を残すことができたと判断しています。

■財務状況（経理的基礎）

総括において触れましたとおり、5期は団体設立来初めて事業収入が前年（4期）を下回りましたが、持続化給付金、家賃支援金等、国の行った経済対策制度の適用、或いは大口の寄付もあり収支全体は好転いたしました。（P8：収支明細参照）

支出については昨年11月に移転した事務所にかかる固定費の増加が大きくありましたが、コロナ禍における営業縮小からくる変動費減により総体としては10%増程度に抑えることが出来ました。

これらの結果、純資産も微増となり、財務状況は4期末より改善されましたが、いまだ安定とは言えない認識のもと、引き続き状況改善に向け対応を検討しなければいけないと考えます。

※収支（4期～5期）

（単位：千円）

	4期	5期	対4期
収入計	11,525	12,802	111%
事業収入	11,525	10,642	92%
事業外収入	0	2,160	-
支出計	10,336	11,409	110%
事業支出	10,336	11,409	110%
事業外支出	0	0	-
収支計	1,188	1,393	117%

■他社、他団体との連携

4期より参画しています凸版印刷株式会社（以下、凸版印刷）、サポートセンターどりーむとの3者協働プロジェクトである「可能性アートプロジェクト2020」に継続して取り組みました※別紙資料参照。特に今回は昨年の長楽寺に代わり、昨今の社会情勢を鑑み、京都大徳寺 瑞峰院の施設と凸版印刷の持つデジタルテクノロジー（バーチャルリアリティ）を活用し、「可能性アートプロジェクト展 in 大徳寺 瑞峯院」としてバーチャル環境での作品展覧会を行いました。これまでアート鑑賞について当然のように存在していた地理的或いは時間的な制約を乗り越え、かつ歴史ある施設や景観といった通常は展示が行われない環境とあわせて作品を鑑賞できるという点でこの展覧会の開催は将来に向けて大変意義深い試みになったと確信しています。

また、名古屋の団体（ハートウィング）が開催したアールブリュット展覧会に作品を提供しました※別紙資料参照。これもまた、「第三者による障がい者アートの周知活動サポート」という点で当協会が目指しています一つの形であり、今後の周知のあり方や作品活用方法として可能性を感じるものでありました。

Ⅲ. 6期に向けた課題

■収益基盤再構築

5期は不安定な社会情勢の中、継続的な活動を可能とする収益基盤の脆弱さを露呈しました。現在、金額ベースで収入の36%を占め、その柱となっている企業による作品の二次利用は順調に実績も積み上がってきてはいるものの、それも経済情勢に大きく左右されるものであることから、現在の取り組みはそのままに、新たな収益事業の柱を育成する必要性を強く認識しています。

6期につきましては、現在の主体的な二次利用への取り組みに加え、これまで以上に他団体と連携し「作品提供」という役割に徹した作品二次利用を中心に収益基盤構築の検討を進めます。

■作品及び著作権管理の体制整備

5期よりご協力者のご尽力により、作品公開作業については大幅に合理化が図られました。但しそれら14000点を超える作品を管理する、或いは作品の二次利用とセットとなる著作権を管理するという体制がまだまだ最適化には程遠い状況です。

6期につきましてはこの点について解決策を検討してまいります。基本的にはシステム投資という方向で検討せざるを得ないと考えていますことから、併せて資金調達という点についても検討しなければならないと認識しています。

■啓蒙活動への取り組み

団体設立来、作品を見せ、それを活用するというシンプルな周知活動への取り組みを続けてまいりましたが、5期を終えた時点でアート作品公開数国内最大となった活動に取り組む団体として、「障がい者アートとその作品を活用したCSR、SDGs」についての全国的な啓蒙活動に取り組む責任があると当協会は考えます。

これまでこの啓蒙活動についてはほとんど手つかずではありましたが、5期はオンラインによる地域の支援団体との面談や大学での講義等、啓蒙活動になりうる機会を何度か頂戴しました。この際上記啓蒙活動への当協会なりの取り組み方として一定の手応えを感じましたので、この経験をもとに6期につきましてはオンラインによるセミナー、情報交換などの実施を全国的な視野で検討して参ります。

参考資料 I (二次利用実績一例)



建設現場仮囲い (鉄建建設株式会社_幕張新駅)



カレンダー (株式会社ヤマデン)



エコバッグ (鉄建建設株式会社)



マスクケース (鉄建建設株式会社)



ランチバッグ (Kaepa)



クールスポット外壁 (株式会社東京ガス)

参考資料Ⅱ（他社、他団体連携）

①可能性アートプロジェクト2020：凸版印刷株式会社・サポートセンターどリーむ



選考会（凸版印刷株式会社_本社）



展示（凸版印刷株式会社_小石川オフィス）



二次利用（アートカレンダー）



二次利用（カートカン）



可能性アートプロジェクト展 in 大徳寺 瑞峯院

②Wonder heart展～アールブリュット～（愛知県名古屋市 ギャラリーbar「人人」）



参考資料Ⅲ（財務諸表他）

損益計算書

(2019年12月～2020年11月)

(単位：千円)

	4期	売上比	5期	売上比	増減額	増減率
売上高合計	11,525	100%	10,642	100%	▲ 883	92%
売上原価	2,903	25%	3,386	32%	483	117%
売上総利益	8,622	75%	7,256	68%	▲ 1,366	84%
販売費及び一般管理費合計	7,433	64%	8,022	75%	589	108%
営業利益	1,189	10%	▲ 766	-7%	▲ 1,955	-64%
営業外収益合計	0		2,160	20%	2,160	
営業外費用合計	0		0	0%	0	-
経常利益	1,189	-	1,394	13%	205	117%

損益計算書

(2019年12月～2020年11月)

(単位：千円)

	3期	構成比	4期	構成比	増減額	増減率
流動資産合計	1,853	9%	2,6009	98%	756	141%
固定資産合計	44	12%	44	2%	0	100%
資産の部合計	1,898	100%	2,654	100%	756	140%
流動負債合計	1,146	185%	509	-	▲ 637	44%
固定負債合計	0	0%	0	0%	0	-
負債の部合計	1,146	185%	509	-	▲ 637	44%
純資産の部合計	752	-	2,145	-	1,393	-
負債・純資産の部合計	1,898	100%	2,654	100%	756	140%

収支内訳

(単位：千円)

	収入			件数			単価	
		(構成比)	(対4期)		(構成比)	(対4期)		
作品二次利用	4,582	(36%)	(159%)	56	(54%)	(122%)	82	(131%)
スポンサー	1,957	(15%)	(43%)	10	(10%)	(67%)	196	(65%)
寄付	3,806	(30%)	(105%)	29	(28%)	(107%)	131	(98%)
その他	2,457	(18%)	(454%)	9	(9%)	(450%)	273	(101%)
計	12,802		(109%)	104		(116%)	123	(95%)

主な増加支出科目

(単位：千円)

	5期増加科目	4期	5期			
			(構成比)	対前期	増減	
原価	・デザイン等外注費 ・著作権利用料支援費他	1,689	2,193	(39%)	130%	504
人件費	・理事報酬	1,50	2,350	(41%)	156%	844
事務所費	・家賃 ・水光熱費他	129	342	(6%)	265%	213
活動費	・クラウドサービス利用料 ・旅費交通費、車両費他	567	790	(14%)	139%	223
支出計		3,891	5,675	(100%)	146%	1,784

以上

一般社団法人 **障がい者アート協会**

埼玉県飯能市八幡町16-12-D

代表理事 熊本 豊敏
理事 水谷 陽平
理事 柴田 礼子